

えくてびあん

立川と語ろう 立川に生きよう

April 2022

Écoutez Bien Vol.38 No.445

4

世界の山下、えくてびあんに!

表紙／春が来た(泉町)



大酒大食の會

まんぢう五十ようかん七棹薄皮三十茶十九杯

時は文化十四年（一八一七）、十一代將軍家齊の治世に「大食い大会」が催された記録がある。泰平の世が続くと、人の考えは同じ方向に向くらしく、江戸にもグルメファイターが続出し、嘘か真か、その記録は現代人をも驚かす。「大食い大会」は平和の証なのだろうか。

リアルタイムに見聞きした種々雑多な情報をまとめた『道德塗説』（大郷良則）によれば、文化十四年三月二十三日、両国柳橋にあった萬屋八郎兵衛方に大食い自慢が集まって、食べっぷり、飲みっぷりを競争したという話。酒組、菓子組、飯連、鱈連、蕎麦組などに分かれてその「力」を競う。「大食い大会」に野暮な説明は不要だろう。

此頃或家にて大酒大食の談に及びけるに去ぬる文化十四年丑三月二十三日両國柳橋萬屋八郎兵衛方に於て大酒大食の會興行連中にて格別の輩左の如し

（中略）
菓子組

神田 丸屋勘右衛門 五十六

一、まんぢう五十ようかん七棹薄皮三十茶十九杯

八町堀 伊勢屋清兵衛 六十五

一、まんぢう三十鶯餅八十

松風せんべい三十枚澤庵香物丸にて五本

麹町 佐野屋彦四郎 二十八

一、米まんぢう五十鹿の子餅百茶五杯

千住百姓 武八 三十七

一、まんぢう三十小らくがん二拵

ようかん三棹茶十七杯

丸山片町 安達屋新八 四十五

一、今坂餅三十せんべい二百枚梅干一壺茶十七杯



五十六歳で饅頭五十個食べて、その上羊羹を七本、薄皮饅頭を三十もとは恐れ入る。佐野屋彦四郎は若いとはいえ、鹿の子餅百個は甘党の極地。鹿の子餅とは、豆や粟で動物の鹿の背にある斑点を表した和菓子。富山県には米と砂糖を練り合わせた羽二重のようなお菓子もあるようだが、いずれにしても甘い物。甘い物と塩辛い物を交互にという気持ちはわからないでもないが、沢庵を長いまま五本食べるのも、辛からう。せんべいはお菓子の仲間かもしれないが、梅干しもお菓子だったのか。酒組には三升入りの盃を三杯飲んで直ちに一礼して退散したとか、同じ盃を六杯半飲んでその場に倒れ、休んだ後目を覚まし茶碗に水を十七杯飲んだとか、土手に倒れて翌朝まで動かなかったとか、甚句を踊ったとか東北の謡をうたったとか。飯の部には飯のお供に唐辛子や生醤油。鱈（うなぎ）はなぜか枚数ではなく金額表示で食べた量を記してある。が、どの部門を見ても「力」とはいえ命がけだ。こんなことができたのも、家齊の世が大過なく過ごせる毎日だったからということなのだろうが、その陰で実際には世の風紀は乱れ、人口は都市部に集中し農村が荒廃。自ずと天保の改革、綱紀肅正へとつながり、「大食い大会」は姿を消すことになる。

さすが!世界の山下洋輔さん

どんなお話も楽しくて、あっという間の1時間

ネットで「山下洋輔」を検索すると、映像や写真や記事などわんさか出てくる。

目の前に座っている「やさしいおじさん」がそのご本人。

有名エピソードを本人の口に語ってもらっていたら、つまらない質問をしているのがばかばかしくなってしまった。

年齢を感じさせない。肝が据わっているというのはこういうことか。

——世界的ジャズピアニスト、山下洋輔さんからお話が聴けるなんて、本当に光栄です。立川市の交流大使でもいらっしゃいますが、立川には35年くらいお住まいだそうですね。

山下 そうですね。上砂町にあった米軍ハウスが取り壊しになるというので、建築会社に勤めている息子が「俺のところで建ててやる」と言って、砂川町に建ててくれて。そこに住んで、そこがもう20年以上になりますね。阿豆佐味天神社でご存じですか。

——はい。猫返し。山下さんの猫返しの話は有名ですから。

山下 そう、猫返し(笑)。阿豆佐味天神社には歩いて行けます。

——幸町のドイツ製法でハムやソーセージを作っているゼーホフ工房さんもよくご存じだそうですね。

山下 ああ、ゼーホフね。あの店を見つけたときは嬉しかった。僕もドイツが長いから、ソーセージやハムが懐かしくて。

——今日は八中で演奏されたそうですが、中学校での演奏はよくあることなですか。

山下 交流大使として立川市内の中学校を順に回っています。中学生が講堂に集まりましてね、最初は普通に弾いてだんだんジャズになっ

ていくという、授業っぽい演奏です。その場でいろいろ即興演奏をしてアドリブをするのがジャズですよと伝えています。

——ジャズのことは全然わからないので、今日はジャズのことはうかがいませんと予めお話ししてありましたが、こうして聴いていると面白いですね。ジャズって即興なんですか。

山下 ジャズというのはそういうやり方なんです。同じ曲を弾いても、こいつはこんな風にしたとか、あ、こいつはこう演奏したと、それぞれ自分のやり方で即興演奏してみせるんです。

——1月にPLAY PARKで『つきよのおんがくかい』がありました。絵本『つきよのおんがくかい』は、絵が柚木沙弥郎さんで、文は山下洋輔さん。柚木さんの展示にちなんだ演奏会でしたが、即興演奏の連続でしたね。

山下 面白かったですね。子どもたちが走り回ったり、寝転んだりしていたけれど、顔を見るとみんな笑っているんだよね。あの子たちが、なんらかの形で、あの夜のことを覚えていくと嬉しいですね。

——ジャズって、普通の金魚に、背びれや尾びれ、胸びれがついていく、ヒラヒラと飾りがついていくというイメージなのですが。

山下 そのヒラヒラの部分が、演奏者が付け加える即興ですね。ヒラヒラがついていくって面白い表現ですね(笑)。元がある曲が多いんですが、元の曲からインスピレーションを得て、元を崩さず、元には戻れるようにやるのが普通です。僕なんかやっているのは、元なんかなくて、最初から自分でやっちゃう。

——はい。わからない人間にはメチャクチャに聞こえてしまいます。

山下 やりたいようにやっていますが、昔はちゃんとジャズの掟を守ってオーソドックスな演奏をしていたんです。ジャズ

の王道です。そこからだんだん離れていって、とうとう自分勝手にやっていいというフリージャズに行き着いた。アメリカでは、オーネット・コールマンとかセシル・テイラーとかがとくにやっていて、今までのジャズの掟を忘れちゃいましょうというものでした。ですから、最初に聴いた時は僕もびっくりして、この人たちは間違っている、メチャクチャすんな!と怒りましたよ。でもだんだん自由ということを考えていくうちにね、これでいいんだなと思ひまして。

——山下さんには語り継がれるエピソードがとでも多くて。燃えるピアノを弾いていたこともありますよね。

山下 フリーな音楽を始めて、何をやってもいいんだと言い出して、それを続けていた頃のことですね。じゃあ、あいつなら火をつけたピアノを弾くかなとか。テレビでドキュメンタリー番組を作っていた田原総一朗さんに、「面白いところで演奏しなさい」と言われたこともあります。僕が「ピアノを弾きながら死ぬたらいいね」と言ったら、「じゃあ、俺が殺してやる」と言ってね、早稲田の大学紛争の真っただ中にピアノを置いて、ここで弾けって言うんですよ。バリケードで封鎖されたキャンパスでね、紛争中だから学生は棍棒持って聴いているんだけど、誰も騒がないで静かに、大人しく聴いてくれた。

——もしかしたら、田原さんの的には内ゲバとか始まって、そこに他のセクトも乱入してきてゲバ棒とか火炎瓶とか飛び交う大乱闘というシチュエーションを想像して仕組んだ?

山下 そう。危険極まりない演奏会のはずだったんですよ。違う一派もいたりしたんだけど、学生たちが今日は聴かせてくれと言って、本当にみんな大人しく聴いちゃったんだよね。ドキュメンタリー番組だから、その場面がテレビで流れたんですね。それを見た学生たちが、「これは!」と言って、それからですね、各大学の文

山下洋輔氏

1969年、山下洋輔トリオを結成、フリー・フォームのエネルギッシュな演奏でジャズ界に大きな衝撃を与える。国内外のジャズ・アーティストとはもとより、和太鼓やシンフォニー・オーケストラとの共演など活動の幅を広げる。88年、山下洋輔ニューヨーク・トリオを結成。国内のみならず世界各国で演奏活動を展開する。2000年に発表した自作協奏曲を佐渡裕の指揮により04年にイタリア・トリノで再演。06年オーネット・コールマンと、07年にはセシル・テイラーと共演。08年「ピアノ協奏曲第3番(エクスプロラー)」を発表。09年、一柳慧作曲「ピアノ協奏曲第4番 “JAZZ”」を世界初演。16年、ウィーン楽友協会ホールで佐渡裕指揮のトーン・キリストラー管弦楽団と共演。18年、ニューヨーク・トリオ結成30周年記念アルバムをリリースし、国内ツアーを行う。2019年、山下洋輔トリオ結成50周年を迎え、歴代メンバー総出演の記念コンサート「爆裂半世紀!」を開催。20年には最新ソロピアノ・アルバム『クワイエット・メモリーズ』をリリース。

化祭に呼ばれるようになったのは。

——音楽って、静いとか争いを鎮める力があるんじゃないか。

山下 そうなった場合には音楽の力が出たということかもしれません。そんなこと関係なく音楽家を殺しちゃうとかぶっ壊すとか、そうなった場合にはそういう力は無かったということになりますね。

——うへん。先日若葉台小学校に行ってきました。校歌の作曲をされたそうですね。

山下 それも交流大使としての仕事です。二つの小学校が統合して新しい学校ができるというので依頼されました。

——山下さんの人脈がまたすごい。誰もが知っているタモリさん発掘の話はとてつもなく面白いです。

山下 あれは本当に偶然でした。タモリは早稲田のジャズ研出身なんです。トランペットを吹いていたんです。僕らのバンドと渡辺貞夫さんのバンドが福岡でライブをした時、タモリは客で来ていて、その後、渡辺さんのバンドメンバーが早稲田の同級生だということでホテルへ挨拶に来た。別の部屋でどんちゃん騒ぎしているから、なんだろうと部屋をのぞいたら、僕らが部屋呑みをしていたんですね。テナーサックスの中村誠一がゴミ箱をかぶって虚無僧だとか言って踊っていたんです。それを見てタモリが「ここは俺の来る場所だ」と(笑)、後で言ってましたけど。それで踊りながら入ってきたんです。僕らとしては、誠一が踊っているのを見て笑っていたのに、全然知らない人が入ってきたからびっくりですけど、それもジャズの精神なんですね。ジャズやっている時に楽器を持ってパーッと踊りこんでくるのですが、それがうまければ許すでしょ。ジャムセッションですよ。タモリのそれはもう大受けしましてね、中村誠一とやり合うのが全部面白くて。でたらめ韓国語から、でたらめ中国語、でたらめフランス語、という朝まで騒いでね、それで明け方になったら、急に「失礼しました」って帰ろうとするから、ちょっと待って、あんた名前なんていうのと聞いたら、「森田です」って(笑)。バンドマンの名前は逆さになりますからね、それか



ら僕らの間ではもう「タモリ」です。

——それがきっかけで芸能界に入られたそうですね。

山下 そう。新宿のたまり場のバー「ジャックの豆の木」で僕が面白がって言いふらした。このバーには面白い人たちが集まっていたね、僕が「福岡にとんでもなく面白い人がいるよ」と言ったら、みんなが興味を持ってそいつを呼べて。ちょうど新幹線が博多まで繋がった時で、新幹線代は僕らがもつからと電話で呼んだら、素直にやって来たんです。筒井康隆さんや漫画家の赤塚不二夫さんたちが待ち構えていて、さあやってよって言ったら、「はい」ってすぐに物真似で「こちらは北京放送でございます」って始めたわけ(笑)。

最初のきっかけを作ったのは、確かに僕です。赤塚さんがこんな面白いやつ、福岡に帰すわけにはいかない、俺のマンションに泊まらせてマンションをくれたんです。今はないよね、そんなこと。それでタモリもそのマンションにのうと住んでいる(笑)。赤塚さんがあちこちのマスコミ関係に口をきいたりテレビに話したり。でもね、面白くて大受けするんだけど、全部密室芸の禁句ばかりで放送では使えない。これはダメだなと思っていたら、「笑っていいとも」が始まったんですよ。

——最高ですね。面白すぎる。冷し中華の会も山下さんですよ。

山下 そう。これも『ジャックの豆の木』で、僕

が言い出したんです。「冷し中華を冬になぜ食わせない!」って。またみんなが面白がって『全日本冷し中華愛好会』というのができてね、『ジャックの豆の木』には思想家の人たちもいて、冬に冷し中華を食わせろという要求にとどまらなくて、「冷し中華とは何か」を探求して、その挙げ句には革命的な集団になろうということだね(笑)。『月刊冷し中華』という月報を出そうって言ことになり、地方からも会員になりたいとたくさん申し込みが来まして、一時は何千人と会員が膨れ上がりました。筒井さんに原稿依頼したら「喜んで」と書いてくれて、「昔エジプトにツタンラーメンというのがいた、その辺りから始まったらしい」なんてね(笑)。冷し中華の起源に勝手なことを書いて、でもみんなその面白さがわかる人たちで、でたらめだとわかっていて面白がるんですね。

——今の時代、なかなかそういった面白さが少なくなっている気がします。

山下 そうかもしれませんね。——若い人に何か言っていただけとしたら、何でしょう。

山下 好きなこと、やりたいと思ったことは、とにかくやってみようことです。僕も大好きですが、路上に芸術作品を置いてしまうような立川ですから、自由に面白がるといいですよ。

(取材:2022年1月31日 アーティスティックスタジオ LaLaLa)

立川市民科の取組み

立川市立第六小学校の場合

教育課程特区として文部科学省に認可された「立川市民科」。
2022年度からは、「国語」や「算数」と同様に、学校の特色を発揮する教科の1つとなる。
地域とつながり、地域を支える市民を育てる教育だ。

「立川市民科」が登場したのは2015年。立川市では2022年度から正式に教科として取り入れることとなった。立川市と一口に言っても地域によってその特性は異なる。自分たちの住む街を知るところから始まる「立川市民科」は、子どもたちが積極的に地域と関わることで、街に貢献する意欲を養っていくことを目指す。2月18日と19日、立川市立第六小学校で「令和3年度学習発表会 立川市民科公開講座」が開催された。子どもたちが楽しんで学習した記録が、そこにはあった。

2022年度のコンセプトは、1、2年生は「人と関わる」ことを主眼とし、3、4年生は「自然と関わる」ことを、5、6年生は「社会と関わる」として、最終的には起業家教育に取り組む予定だ。その前段となる本年度の取組みが、この学習発表会としてまとめられていた。

どの学年も、地域と深く関わることで多面的な深い学びを得た、いわば生きた勉強をしていたようだ。取材を受けた商店に話を聞くと、「しっかり取材していましたよ。大きな照明器具を抱えてきて、『ワンシーンずつ撮りますから、ここでこう聞かれたらこのように教えてください』と指示もしてくれて」と感心しきり。正式に教科となる2022年度は大いに期待される。



学校外観

1年生



1年生はシルバーさんとの昔遊び交流ができなかった分、地域の自然を観察や拾った葉っぱや木の実から作った作品を用いて秋祭りをを行った。自然に触れて地域と親しむことができた。

資料提供：第六小学校

2年生



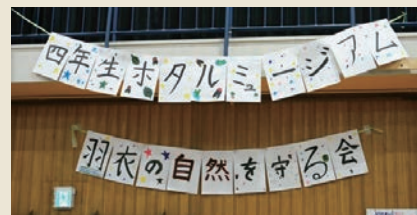
2年生は2年生なりに、学習の中で「街を知る」。本来ならば街を歩いてお店の人と触れ合うはずだったが、感染症対策をとったため、異例の電話取材となった。模造紙に取材結果をまとめ、紙で作ったミニチュアの羽衣商店街が机の上に広がっている。

3年生



3年生は身近な矢川緑地の自然を観察、環境保全活動をする矢川ふれあいボランティアの方たちと触れあう中から矢川緑地の素晴らしさを知った。

4年生



4年生は先輩からホタルの幼虫を引き継ぎ大切に育ててきた。コロナ禍でホタル祭りができない代わりに「六小ホタルウォッチング」を開催し、ガニガラ公園の玉川上水分水に幼虫を放流。また未来へと繋いでいく。

5年生



5年生は地域の商店と関わる中で商店街活性化をテーマに自分たちにできることを模索。お店紹介の動画を自らの手で作り上げた。

6年生



6年生はコロナ禍にオンラインを駆使してできることを考えた。姉妹都市の大町市の小学校とmeetで交流。広く大町市の魅力を発信する発表へと展開した。



立川市立第六小学校 校長 田野倉宏美先生



学校のシンボルはひまわり



子どもたちの真剣な様子



羽衣町に銭湯がある。そのペンキ画を描いている職人さんと呼んで富士山を描いてもらった。六小では以前からこうした地域との関わりを大切にしている。

えくてびあんの輪	
えくてびあんはリストのお店にあります。 今月は 錦町・柴崎町・立川市外 のお店です。	
錦町	カレー店 CHOTA.....525-1004 パン工房 グラーティア.....512-8667 そば処 高尾亭.....522-2710 Natural Food Restaurant シェいなば529-5921 Garden & Crafts café 0120-412-877 至誠学園立川.....527-7734 至誠ホーム.....527-0031 至誠介護相談センター.....527-0321
柴崎町	諏訪神社.....522-2968 毎日新聞社グループ (株) 毎日広告社 522-6121 パスタビーノ はしや.....521-3386 高島ビル.....526-0111 Hair Room MOON ZETTON 523-0961 南武堂剣道具店.....527-0197 ビジネスホテル 小沢屋.....523-0388 おしゃべりカフェトーク・スペース 527-1636 ESKI 立川南口店.....526-2947 (株) 一心堂.....527-3777 すがの歯科.....540-2675 紙匠 雅.....548-1388 あすなろクリニック.....529-2756 ビストロこづ.....525-9929 入船茶屋.....524-6266 串揚げ割烹 トントン.....524-4521 不動産 コマツホーム.....525-5811 芹沢ガラス店.....522-3065 かみゆい処 わ.....522-8202 ファッションハウス ホマレヤ 525-2788 ホテル ほまれ.....523-0588 ヘアサロン オオスキ.....528-0809 中国四川料理 山城.....512-8356 酒歩 たから.....528-1510 リサイクル着物 着楽堂.....523-9702 天婦羅・うなぎ 良銀.....522-6702 ギャラリー きらら.....522-3913 生活雑貨 EAST END.....523-9636 特むし銘茶・海苔 菊川園.....526-2035 ジョイフルプラザ.....0120-29-2775 めん心 堤屋.....525-6602 hoccori* café.....595-8379 立川わかば整骨院.....526-8518 中華小皿料理 得得屋.....528-1060 Fashion You Me.....523-1640 石原薬局.....523-4067 サイクルハウス 輪輸館.....522-8100 (株) 正盛堂.....522-2328 小林歯科クリニック.....527-8217 ビューティーサロン ウィスタリア 527-1116 オリオン書房 サザン店.....525-3111 ビストロ&バル ラボール.....529-3088 WISH BONE.....527-7199 西武信用金庫 立川南口支店 529-1311 たましん 南口支店.....528-2211 リオネットセンター立川.....523-3321 りそな銀行 立川支店.....522-4161 オリオン書房 アレア店.....521-2211 ほっとすべーす 中屋.....522-2932
立川市外	昭島市 ECO'S 昭島店.....546-3710 武蔵村山市 中国料理 菜.....561-7233 国分寺市 パンの店 fermata.....534-3334

jorakugajo

真如苑提供番組「常楽我淨」

スカパー！：529ch

スカパー！で放送の常楽我淨は
スマホアプリ「スカパー！番組表」（無料）で視聴できます。

J:COM 多摩：11ch・111ch

放送時間については番組表をご確認ください。

www.shinnyo-en.or.jp

街の話題

TOPICS OF TACHIKAWA

感染拡大時医療施設

2月8日、小池百合子東京都知事が立川の「感染拡大時医療施設」の視察に来られ会見しました。それによれば、「感染拡大時医療施設立飛」は1万㎡、「同高松」は1.2万㎡あり、両施設合わせて650床を、キャンピングカーやコンテナハウスで整備するとのことでした。家族から離れて、あるいは家族と一緒にキャンピングカーで過ごすという非日常の暮らしになるので、ストレスなど溜まらないようにストレッチルームや仕事ができるようなタブレットスペースが用意されるなど、工夫が凝らされています。敷地の外には出られませんが、戸外に出ればそこは立川。広い空と明るい日差し、すがすがしい風を感じられます。2月初旬の急拡大の時期でもあり、またウイルスの強さから言っても施設建設に時間をかけられなかったのでキャンピングカーの活用となりました。この施設は無症状の方に限られますが、予約して利用できます。立飛HDでは立川の1／25の面積を所有しているところから、今回の施設利用にもなったわけですが、災害時には大型トラックが集結し地域防災センターと連携して物流拠点になるなど協定を結ぶことで多摩地域住民の安心も確保していきたいと、都知事はおっしゃっていました。立飛HDの村山社長は同会見で「社会資本財として今回お役にたてて嬉しい」とおっしゃっていました。



感染拡大時医療施設内においての会見で



キャンピングカーが並んでいる



くつろいだりテレビをみたり運動したりのパブリックルーム



コンテナハウスにある部屋



キャンピングカーの内部



広い立川の空



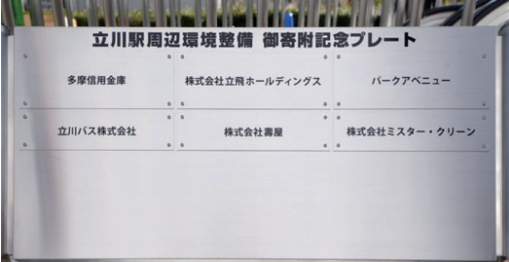
コンテナハウスの中に部屋がいくつも

みんな喜ぶエスカレーター

2月25日暖かい日差しが注ぐ中、サンサンロードとデッキを結ぶ階段にエスカレーターができました。この階段に、エスカレーターは本当に望まれていたものです。嬉しいですね。清水立川市長、川口商工会議所会頭などが参列され竣工式と上り初め。このエスカレーターが来街者を呼ぶとは思えませんが、今まで無いのが不思議でした。サンサンロードの奥に奥にと立川のにぎわいが伸びているのですから、必須でしたね。キラキラ光ってとてもきれいな初日の様子です。



エスカレーター使用のテープカット



市長を先頭に上り初めです

立川産の証です

2月9日、立川市役所で立川農業全体をブランド化する「立川印」のお披露目がありました。立川農業振興会議から推薦された10名（内4名が女性）の生産者が作戦会議を繰り広げ、このブランドマークを決定。「見て、感じて、あじわって」ほしいとの思いを、マークの色や形に表したそうです。このマークがついていたら立川産。「こくべじ」とか「鎌倉野菜」「京野菜」「江戸東京野菜」のようにメジャーになる日を目指して、「立川印」頑張れ！



立川で五冠！

2月11日と12日、緑町のSORANO HOTELで第71期ALSOK杯王将戦七番勝負第4局（毎日新聞社、スポーツニッポン新聞社主催、ALSOK特別協賛、囲碁・将棋チャンネル、立飛ホールディングス、森永製菓協賛、立川市、立川商工会議所後援）が開催されました。挑戦者の藤井聡太竜王が114手で渡辺明王将を破り4連勝で初の王将を獲得、立川の地で竜王・王位・叡王・棋聖と合わせ最年少で5冠となりました。12日にはパレスホテルで大盤解説が行われ、その後藤井聡太新王将の記者会見も行われました。挑戦しつつこれからは追われる身にもなるわけで、勝負の道は厳しいけれど「一意専心」とはまさにこのこと。

藤井聡太王将 パレスホテルで

表紙

多摩の春

富士山にはまだ雪。手前の街には春が訪れています。梅が満開を迎え、桜も咲きはどんどん花開く。暖かい日には開花が一層早くなります。ソメイヨシノもそろそろ美しく開くでしょうか。立川から見える風景には緑が多い。花だけでなく、緑は和らぐ空気を演出してくれています。見えている町並みは昭島、そして多摩川を越えて八王子。春の野山は和菓子を連想させます。「桜餅」「道明寺」「草餅」「花筏」「花見だんご」に「串だんご」。立川には和菓子屋さんが少なくなりましたが、こうした季節の移ろいはやっぱり和菓子にぴったりです。話はいつの間にやら、花より団子。『若鮎の二手になりて上りけり』とは正岡子規の句ですが、多摩川は鮎でも有名。「若鮎」というお菓子が多摩地域にはあります。どうも食いが勝っているようで。

かたこと

◆あえて口にしくなくても気がかりなのは、昨日まで普通の生活をしていた人々が今日は我が家を捨てて逃げなければならないという事実。先の大戦が終了してからまだ77年しか経っていません。みんなが望んでいるのに、「平和」を維持できない理由はどこにあるのでしょうか。火種はどこにもあるのかもしれませんが。他人事ではない、自分事◆平和な時代の象徴のように、江戸時代にも「大食い大会」があったとは。江戸時代の料理を再現しようと思うと、今ではなかなか難しい。「猪」「兎」はまだしも、「熊」「猿」「白鳥」「鶴」「雉」は手に入りません。なにしろ写真のない時代、絵に描かれた様子で想像して作っています。今回のお饅頭も薯蕷と薄皮で江戸時代を作ってみました。先の号でもお伝えしたように、ご飯は当然白米です◆去る2月26日は山下洋輔さんのお誕生日。80歳、傘寿を迎えられました。お話をうかがう中に、どんなことにも挑戦、楽しまれていることがよくわかりました。自由を謳歌、人生を楽しめる世の中が望まれます◆地域と深く関わる授業、机上だけでなく実地で多くを学べるところが素晴らしい「立川市民科」。校長先生が児童一人ひとりをよく知っているのも素晴らしい◆今年も花咲く季節です。花に希望を見出して、未来に向けて祈ります。 えくてびあんスタッフ一同

えくてびあん ⑨

4月号 第38巻 通巻445号

令和4年4月1日発行
発行 有限会社えくてびあん
〒190-0023
東京都立川市柴崎町2-1-10 高島ビル4F
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065
E-mail message@tamatebakonet.jp
URL https://www.tamatebakonet.jp
発行人 黒須 環
企画・写真・編集 えくてびあん編集スタッフ
デザイン 池田隆男（WATER DESIGN ASSOCIATES）
印刷 三浦印刷株式会社・DECK C.C.

無断転載を禁じます。

パレスホテルの桜 新たに植樹

2月25日、朝早くから東京立川ロータリークラブの皆さんが、パレスホテル南側の壁面で桜を植える準備をされていました。「東日本大震災を忘れない」ために、ここにはすでに被災地のロータリークラブのご協力で「宮城の桜」「福島の桜」「岩手の桜」そして「東京の桜」が植えられています。本年植樹10年を迎えるにあたり、新たに3本の桜を植えることになりました。植樹は2月25日に終わりましたが、3月11日には周辺の清掃と共に、記念式典が開催されました。立川の桜の名所のひとつになるということです。



常緑の下草コニファーをまず抜きます



土をきれいにしてから桜を植えていきます



植樹して10年を迎える桜たち 今回銘板をつけました

よいとまつりパネル展

2月24日から3月2日まで、市役所1階多目的プラザで「立川よいと祭りパネル展」が行われました。「立川よいと祭り」の第1回からその歴史を展示、参加団体の説明などもあり、コロナ禍で中止になった「立川よいと祭り」の楽しさを思い起こさせてくれるものになりました。2022年のよいと祭りは、8月6日に開催予定です。



展示の様子



「立川よいと祭り」関係者の皆さん（展示会場で）